



取組概要

ゲリラ豪雨・竜巻等予測の高度化と気象情報の提供
 —突発的自然災害の予測技術向上と確実な情報伝達による安全・安心の確保—

社会情勢／社会課題

超大型台風やゲリラ豪雨などの極端気象による水・土砂災害が昨今激化しており、首都圏を始めとする大規模水害の襲来が必至とされる今、「レジリエント（強靱）な社会構築」が急務とされている

長期ビジョン

豪雨・竜巻などの事前予測によって、極端気象にともなう災害から国民の命を護る

東京大会での役割

ゲリラ豪雨などの極端気象に係る災害情報を正確かつ時間的な余裕をもって提供することで、安全な大会運営の実現と来訪者の安全な滞在を確保する

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

自然災害に対する万全の備えをもって臨む安全・安心な大会姿勢を世界の人びとへ強く発信する

2 大会ホスピタリティ

避難誘導など来訪者の安全確保まで徹底した安全・安心ホスピタリティ提供のため、極端気象の予測情報を発信する

3 シェアードバリュー

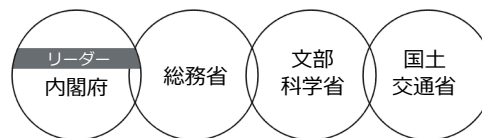
会場周辺（東京）において実証された技術の展開を図り、レジリエントな防災・減災を強化する

2020大会に向けたコンセプト



Weather Forecast Innovation 2020 ゲリラ豪雨・竜巻事前予測

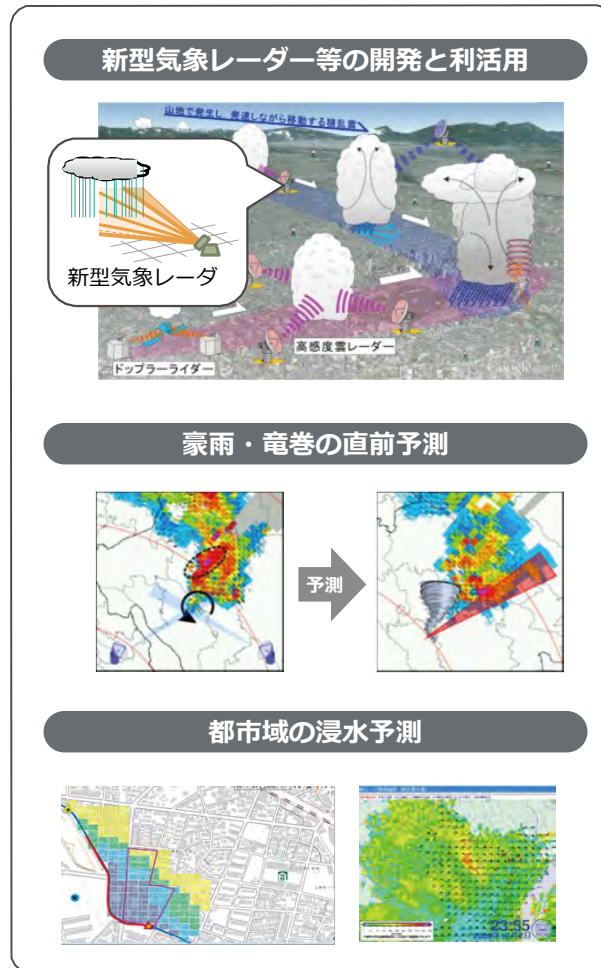
ゲリラ豪雨が降りだす前に、人々へお知らせ





数十秒間隔で観測できる次世代気象観測装置等の利活用により、発生前にゲリラ豪雨等を予測し、降雨地域や都市浸水地域を予測する技術を開発。

予測結果は、気象の影響を受けやすい競技へ有益な情報を提供するとともに、自治体が発出する避難勧告・指示や、屋外競技の中断・再開や観客・選手の避難等の大会主催者の判断、鉄道等交通機関の運行情報への活用を通し、来訪者等を混乱なく誘導。



2020大会に向けた取組

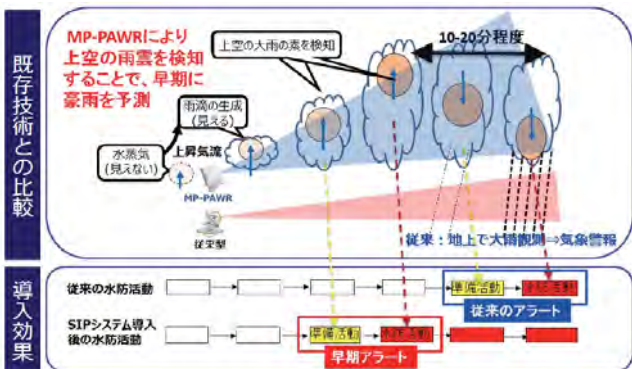
マルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダ（MP-PAWR）等の開発・活用による豪雨・竜巻予測情報の高度化とともに、水災害に対する観測・分析・予測技術の開発及び導入を推進する

概要

- ▶ 雨雲の立体構造を30秒で把握し、急速に発達する積乱雲の検知が可能な世界初の実用型気象レーダ（マルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダ：MP-PAWR）を開発、平成29年12月に埼玉大学に設置し、現在試験運用中。首都圏全域をカバーし、オリパラ競技会場の多くをカバー。
- ▶ 本レーダを活用することにより、今までできなかった、ゲリラ豪雨の発生20分前の検知、30分先の強風予測、落雷発生予測などが可能となり、警戒・避難等に十分なリードタイムを確保。



MP-PAWR
(埼玉大学屋上に設置)





2020大会 実施状況

大会期間中（7月23日～8月8日、8月24日～9月5日）、
組織委員会、東京都庁それぞれで事前予測情報等を参照

●東京2020オリパラ組織委員会 気象情報センター



●東京都庁 都市オペレーションセンター



Weather Forecast Innovation 2020 ゲリラ豪雨・竜巻事前予測

ゲリラ豪雨が降りだす前に、人々へお知らせ

